

社会性をはぐくむ家庭教育支援の在り方

—家庭の教育力向上を目指して—

長期研修員 西川 恵三

Nishikawa keizou

要 旨

子どもは多様な人間関係の中で社会性を培っていく。しかも、子どもは家庭を基盤として、様々な人とのかかわりの中で基本的な生活習慣や道徳心などを身に付けていく。しかし、近年の家庭における教育力の低下を考えると、これらは、家庭だけではなく学校・地域との連携の中で育てていかなければならない。そこで、子どもの豊かな心と社会性を育てるために、学校からの家庭教育支援の在り方を考える。

キーワード： 社会性、基本的な生活習慣、道徳心、親の意識と姿勢

1 はじめに

家庭教育はすべての教育の出発点である。この教育によって子どもの豊かな情操や基本的な生活習慣、家族や他人に対する思いやりなどが培われる。

しかし、近年、少子化・核家族化・地域の結びつきの希薄化など、家庭や家庭を取りまく環境が著しく変化する中で、子育てや子どもとのかかわりに悩みや不安をもつ親が増えている。特に、思春期の子どもをもつ親の中には、子どもの基本的な生活習慣や道徳心などを身に付けさせるのに、子どもとどのように向き合えばよいか分からず悩みや不安をもつ親が多い。

そこで、夢や希望をもって未来を拓く人間としての豊かな心と社会性を育てるために、家庭・学校・地域が連携して家庭教育を進める方途について考える。

2 研究目的

思春期の子どもに豊かな心と社会性を育てるために、家庭・学校・地域の連携を踏まえた学校からの家庭教育支援の在り方を考える。

3 研究方法

- (1) 先行研究に関する調査研究
- (2) 家庭教育における現状と課題
- (3) 家庭教育力向上のための学校からの支援

4 研究内容

- (1) 先行研究に関する調査研究

「母親・父親・地域の教育力」（2001年入江昌明・半田博著）では、子どもは家庭で基本的な人間関係や役割関係を体得するとともに生活習慣や常識を身に付け、更には、人間としての生き方

の基礎とその根底にある価値観を身に付けていくことから、家庭は子どもの人間形成において重要な意味をもつ場であると述べられている。

このことは、発達段階のいずれの時期においても言えることだが、親のかかわり方は子どもの発達段階に応じて違わずである。

奈良県立医科大学看護短期大学部の飯田順三教授は、家庭教育番組「いきいき家族」の中で、最近の思春期の子どもの特徴として、①がまんする心が乏しい、②短絡的・衝動的である、③密接な対人関係を回避する、④傷つきやすい傾向が見られる、などを挙げている。また、ベネッセ未来教育センターの調査（2004年実施）からは、現在の中学生は依存性が強く反抗期をもたない、つまり、自立心がないという報告もされている。

子どもにとって思春期は自己をつくる大事な時期であり、親に依存したり親から自立したりすることを繰り返しながら成長していく。そのため、親は思春期の子どもに対して、子ども扱いすることもあれば大人として扱い本人の自主性に任せることもある。

思春期に見られるこの成長過程に加え、子ども自身の心身の揺れ動く不安定な状態が、思春期の子どもを健全に育てるための家庭教育の難しさを生み出している。

(2) 家庭教育における現状と課題

ア 子どもの生活実態

本来、基本的な生活習慣や道徳心などは、生活経験を重ねるにしたがって身に付いていくものである。

しかし、小学5年生と中学2年生の子どもを対象にした、平成14年度の奈良県教育委員会の「家庭教育アンケート調査」（以下「家庭教育調査」と略）によると、「朝、人に起こされなくて自分で起きる」「家の人に『おはよう』のあいさつをする」「近所の人に出会ったとき、あいさつをする」などの基本的な生活習慣や、「学校に遅刻する」「そうじ当番をなまける」「道ばたにゴミを捨てる」などの道徳心に関する調査結果から、小学5年生に比べて中学2年生の方が身に付いていないことが分かる（表1、2）。

イ 親の意識と子どもを取りまく地域の実態

保育所・幼稚園児、小学生の親等を対象にした、平成12年度の「家庭教育調査」によると、「子育てで困ったり不安に思うこと」のトップにくるのは「友人関係（友達、いじめなど）」である（表3）。わが子が、いじめや仲間はずれの加害者や被害者になっていないかと、親は不安に思い心配してい

表1 家庭教育アンケート調査（平成14年度 奈良県教育委員会）

	小学5年生 (%)	中学2年生 (%)
朝、人に起こされなくて自分で起きる	68.6	60.2
家の人に「おはよう」のあいさつをする	80.7	67.4
近所の人に出会ったとき、あいさつをする	78.6	73.8

表2 家庭教育アンケート調査（平成14年度 奈良県教育委員会）

	小学5年生 (%)	中学2年生 (%)
学校に遅刻する	10.3	20.5
そうじ当番をなまける	34.9	55.6
道ばたにゴミを捨てる	22.0	34.1

表3 家庭教育アンケート調査（平成12年度 奈良県教育委員会）
子育てで困ったり不安に思うこと

友人関係（友達、いじめなど）	67.7
将来（進学、就職など）	50.8
反抗期のしつけ	50.4
成長（身体、情緒、知的発達）	28.2
健康（アトピー、ぜんそくなど）	20.1
子育てに関する夫婦の考え方	13.8
自分自身の時間がない	11.1
祖父母の関わり方	8.9
家族の協力	7.3
生活習慣（排便、衣服の着脱など）	6.9
困ったときの相談相手がいない	2.8
子どもを預ける施設	2.3
その他	4.4

る。このことは、中学生になっても同様で、親は学級や部活動での子どもの人間関係について、多くの相談を担任に寄せてくる。

表4は、
一世代前の親と今の親の「しつけ観」の比較を示したものである。
いつの時代でも親は子どもに対して「基本的

表4 家庭教育アンケート調査（平成12年度 奈良県教育委員会）
一世代前の親と今の親の「しつけ観」の比較

	親から言われた (%)	子どもに言う (%)
基本的なしつけ（あいさつ・行儀や礼儀作法など）	80.0	76.1
生活習慣（家の手伝い・靴をそろえる・整理整頓など）	50.8	33.3
食事と食生活（好ききらいせず食べる・箸や茶碗の持ち方など）	39.7	33.5
性格・情緒（やさしさ・素直・わがままなど）	32.4	43.6
身体の発達や健康・安全（姿勢が悪い・車に用心など）	31.6	35.0
集団生活（友達と仲良く・きょうだいげんか・いじめなど）	22.1	49.7
知的発達（本を読みなさい・勉強・よく遊びよく学びなど）	21.9	20.5
親子関係（親に口答えしない・子どもをよくほめるなど）	13.3	6.0

なしつけ（あいさつ・行儀や礼儀作法など）」を大切にしていることは変わらない。

今と昔の比較で変化の見える部分から、その時代の子育てに対する不安の傾向が見えてくる。

一世代前の親は、生活習慣を身に付けることや好ききらいせず食べること等に注意を払ってきたのに対し、今の親は、集団生活の中でわが子が人間関係を上手につくれるかどうかや、子どもの性格や情緒に注意を払っている。

また、小学5年生と中学2年生を対象にした、平成14年度の「家庭教育調査」からは、「近所の人からほめられる」「近所の人から注意される」といった、地域の大人がよその子どもに対しても、自分の子どもと同じように世話をやいたり、叱ったりすることが少ない状況が見られる（表5）。

表5 家庭教育アンケート調査（平成14年度 奈良県教育委員会）

	小学5年生 (%)	中学2年生 (%)
地域の祭りや行事に参加する	80.0	64.6
近所の人からほめられる	49.5	31.9
近所の人から注意される	11.0	5.2

ウ 課題

豊かな心と社会性をはぐくむためには、子どもが様々な場でよりよい人間関係を築いていけるようにすることが大切である。子どもは様々な人とのかかわりの中で基本的な生活習慣や道徳心などを身に付けていく。

親から子への言動は、社会の状況に子どもを適応させるために行われる一面をもつ。今の親は子どもの人間関係づくりに深い関心がある。つまり、子どもに社会性を身に付けさせたいという意識が強い。しかし、思春期の子どもの生活実態から明らかなように、それらが十分身に付いているとは言えない。

したがって、思春期の子どもに基本的な生活習慣や道徳心などを身に付けさせるには、子どもを取りまく大人たちが、家庭・学校・地域それぞれの場でそれぞれの教育力を生かしながら育てていく必要がある。そうすることで、子どもの人間関係が豊かになり社会性が培われていく。

(3) 家庭教育力向上のための学校からの支援

ア 学校と家庭との連携を深める支援の在り方

(ア) 土曜日を含めた1週間の自由参観の実施

親は子どもの普段の学校生活の様子を知りたいがっている。親は子どもが「真面目に授業を受けているのだろうか」「学級や部活での友だち関係はうまくいっているのだろうか」などといったこと

をいつも心の隅で思っている。

学校は子どもの授業中の態度や友だち関係などを、家庭訪問や懇談会や広報誌などで親に知らせている。そして、親は学校が発信するこのような情報や子どもとの会話から、子どもの学校生活の様子を知ることになる。しかし、こういった学校からの情報や子どもからの情報は間接的であり、しかも、学校生活の一部しか伝わらない。

そこで、普段の学校生活の様子をより多くの親に知ってもらうために、決まった日時に決まった場所で実施する授業参観よりも、親が自由に来校できる自由参観を実施したい。しかも、家庭の事情や仕事の都合で、普段は学校に行きたくても行けない親が多いことから、土曜日を含めた1週間の自由参観を実施したい。この自由参観を通して子どもの活動を親に知らせるとともに、親の子育ての意識を向上させたい。

特に、土曜日は休みの職場も多いことから、多くの父親の参観が期待できる。参観を通して、子どもに積極的にかかわろうとする父親の意識や姿勢を高めたい。

a 親の参加

今までの参観は、子どもの発表や行動を通して、わが子の成長ぶりを見ているだけの傍観的なものが多かった。

そこで、親も授業や清掃に参加して、子どもと一緒に活動するような参観を実施する(資料1)。親子の共同体験は、子どもにとって生きた学びとなり、活動への意欲を増すことができる。更に、親にとっては子育ての楽しさや責任感の再認識につながる。

◎参観日・・・各学期に1週間(月曜日～土曜日)とする。
◎参観時間・・・子どもの活動中で、来校や帰宅は自由である。
◎参観方法・・・①子どもと一緒に授業に参加する。 ②清掃活動は、子どもたちと一緒にやる。 ③休憩時間は、子どもたちとともに過ごす。
◎その他・・・①休憩場所は余裕教室などを活用する。 ②上記の参観方法①～③は、強制ではなく自由である。 ③時間割や授業内容、教室の配置など参観に必要な情報を事前に提供する。

資料1 自由参観の実施内容

b 土曜日の実施計画例

土曜日は他の曜日よりも多くの親の参観が予想されるので、資料2のような特別な時間割を設定する。

◎1限目(学活)

子どもは家庭を基盤にして、基本的な生活習慣を身に付けていく。そこで、子どもを対象にした「家庭生活アンケート」(資料3)を事前に実施しておく。学活の時間にアンケートの結果を伝え、子どもの家庭生活を親子で振り返る機会をもち、子どもに基本的な生活習慣を身に付けさせるには、家庭の役割が大切であることを親が認識するためのきっかけとしたい。

◎2限目(道徳)

例えば「一座建立」(道徳教育推進指導資料6、平成9年3月、文部省)という資料を活用し、親にも授業に参加してもらう。

子どもだけでなく、親に様々な感想や意見を発表してもらうことによって、子どもの道徳への関心は高くなる。また、子どもの道徳心を育てるには、学校だけでなく家庭の教育力が大切であるこ

朝の会		朝の挨拶「おはようございます」
1 限 目	学 活	家庭生活アンケートの結果発表 親も一緒に参加してもらう
2 限 目	道 徳	主題「社会のきまり」、資料「一座建立」 親も一緒に考えてもらう
清 掃		親子一緒に掃除をする
終わりの会		帰りの挨拶「さようなら」

資料2 土曜日の実施計画例

とを親に知ってもらおう。

更に、家庭でも親子で話し合ってもらえるように、後日、授業の感想や家庭で話し合った内容を書いてもらい、それを通信などで親に伝える。

		第 _____ 学年 _____ 組 男・女
●	家庭での生活を考える学習の資料にしたいと思います。次の質問事項に答えてください。	
①	普段の朝起きる時刻を教えてください。	_____ 時 _____ 分ごろ
②	家族に朝の挨拶「おはよう」を言いますか。	いつも言う・時々言う・あまり言わない・全く言わない
③	朝食は食べていますか。	いつも食べる・時々食べる・あまり食べない・全く食べない
④	朝に洗面や歯磨きをしていますか。	いつもする・時々する・あまりしない・全くしない
⑤	自分のまわりの掃除や整理整頓をしていますか。	いつもする・時々する・あまりしない・全くしない
⑥	家の手伝いをしていますか。	いつもする・時々する・あまりしない・全くしない
⑦	家の手伝いをしている人に聞きます。どんな手伝いをしていますか。	_____
⑧	家族と話していますか。	いつも話す・時々話す・あまり話さない・全く話さない
⑨	朝食は家族のだれかと食べていますか。	いつも食べる・時々食べる・あまり食べない・全く食べない
⑩	夕食は家族のだれかと食べていますか。	いつも食べる・時々食べる・あまり食べない・全く食べない
⑪	食前に手を洗っていますか。	いつも洗う・時々洗う・あまり洗わない・全く洗わない
⑫	食前に「いただきます」、食後に「ごちそうさま」を言いますか。	いつも言う・時々言う・あまり言わない・全く言わない
⑬	家庭での勉強時間を教えてください。(宿題の時間は除きます)	_____ 分 _____ 時間 _____ 分
⑭	家族に夜寝る挨拶「おやすみ」を言いますか。	いつも言う・時々言う・あまり言わない・全く言わない
⑮	夜寝る前に歯磨きをしていますか。	いつもする・時々する・あまりしない・全くしない
⑯	普段の夜寝る時刻を教えてください。	_____ 時 _____ 分ごろ
ありがとうございました		

資料3 家庭生活アンケート

(イ) 校内環境美化活動の実施

親と子どもの共同体験は、親子の絆が深まるとともに一体感が高まる。そこで、学校が中心となって、休日に親と子どもと教員が一緒になって校内の環境を美しくする作業を実施する。例えば、机や椅子や壁の落書き消し、壁のペンキ塗りやドアの修理、校庭のゴミ拾いや草引きなどをする。生活環境を整えることによって、子どもは心の安定が図られ学習意欲も芽生えてくる。また、親の子どもにかかわろうとする意識や姿勢を高めることができる。

イ 家庭と地域との連携を深める支援の在り方

(ア) 親子ボランティアウォークラリーの実施

家庭と地域の人たちとのふれあいは、子どもの人間形成において大切なことである。そのことをPTA役員会で提案し、PTAと生徒会の共催で地域の清掃を兼ねた親子ボランティアウォークラリーを実施したい。地域のゴミを拾いながら、コマ地図を読み、進路を探し、チェックポイントでゲームをするという内容である。置籍校の校区は豊かな自然に囲まれているとともに名所旧跡も多いので、これらをウォークラリーに活用したい(資料4)。また、僧侶の講話を聞くようなチェックポイントを設定して道徳観を養えるようにする。

高取城跡、武家屋敷、猿石、五百羅漢、鳥ヶ峰古戦場、札之辻跡 市尾墓山古墳、越智居城跡、貝吹山城跡、乾城古墳、東明神古墳 壺阪寺、宋泉寺、信楽寺など

資料4 高取中学校区内のウォークラリーチェックポイント

親子が自然に親しみながら共同で活動したり、遊んだり、講話を聞いたりすることによって、親と子どもの一体感が高まり、親子の信頼関係が一層深まる。また、地域の人たちとの出会いと交流によって、子どもは人間関係の大切さや社会規範の必要性を実感することができ、基本的な生活習慣や道徳心などが培われていく。更に、地域に対する愛着も生まれ、自分たちの町は自分たちできれいにしようとする心も培われることが期待できる。

(イ) 定期的な子育てサロンの開設（厚生労働省「つどいの広場事業」活用）

今日の少子化・核家族化・地域との結びつきの希薄化により、誰にも相談できずに子育てに対して悩みや不安を抱えている親も少なくない。こういった親の子育ての支援には教員の役割は非常に大きいですが、地域の教育力を活用すれば更に効果的な支援が可能となる。そこで、学校の余裕教室を活用して「子育てサロン」（資料5）を定期的に開設し、子育て中の親と乳幼児たちが気軽に集い自由に交流できる場としたい。その中で、親の不安や悩みを解消していきたい。

場 所	余裕教室	
対 象 者	乳幼児～思春期の子どもをもつ親	
目 的	子育て中の親の負担感や不安感の解消を目的とする。	
内 容	誰にも相談できずに、深刻に悩んでいる親の相談窓口。	子育て中の親が気軽に集い、自由に交流できる。
日 時	月1回（第1火曜日） 10時～12時	月1回（第1火曜日） 13時～15時
環 境	◎すべり台やブロックなどの遊具類を置いて、子どもが遊べる環境づくりをする。 ◎ソファや湯茶などを用意して、くつろげる環境づくりをする。	
その他	子育て支援ボランティア相談員が2名常駐する。 相談内容は他言しない。	

資料5 子育てサロンの開設

a 子育て支援ボランティア相談員

子育てサロンの開設にあたっては、PTA役員が中心となって、各種会合やPTA通信などを通して、親や地域の人たちに開設の趣旨や開設日などを知らせる。そして、親や地域の子育て支援のNPOやボランティア団体の人たちの中から「子育て支援ボランティア相談員」を募集し、登録し、常駐してもらう。ただし、相談員として実際の相談業務に当たるためには、カウンセリングに関する基本的な技能の習得や、守秘義務に関する事前の研修は不可欠である。

b 親同士の出会いと交流

子育てサロンが開設されることによって、様々な出会いと交流が期待できる。例えば、子育てに関して経験豊富な親と子育てに悩んでいる親との出会いと交流、同じ悩みや不安をもった親同士の出会いと交流、これまでは挨拶程度の付き合いしかなかった近隣の親との出会いと交流などが考えられる。こうした出会いと交流の中で、子育てに悩んでいる親は心のストレスが癒されたり悩みや不安が軽減されたりする。また、経験豊富な親の子育ての知恵の伝達も期待できる。

c 思春期の子どもと乳幼児とのふれあい

少子化や核家族化のため、中学生は普段の生活の中で乳幼児と接する機会はほとんどない。しかし、学校に子育てサロンがあることによって、乳幼児を連れた様々な親子が来校することになり、子どもが乳幼児とふれあう機会も多くなる。その中で、乳幼児の可愛さや命の尊さを体で知ることができる。例えば、乳幼児を抱っこしたりおむつを換えたりする経験も期待できる。そして、子どもは自分が役に立っていることを実感し自分を好きになっていく。自分を肯定できれば誰にでも優しくすることができる。

d 子育てサロンのもう一つの役割

子育てサロンは、子育て中の親の負担感や不安感の解消を目的に、親子が気軽に集い自由に交流できる場として開設するが、誰にも相談できずに深刻に悩んでいる親の相談窓口としての役割も必要である。

そこで、交流の時間以外にカウンセリングの時間を設定して、子育てに関する深刻な悩みに対する相談に応じられるようにする。相談員が中心になってカウンセリングを行い、その悩みが解消できるようにしたい。場合によっては、学校関係者や行政担当者、福祉関係者、医師も交えて

親の支援活動を行うことも必要になる。

5 研究結果と考察

子どもは、多様な人間関係の中で基本的な生活習慣や道徳心などを身に付けたり、社会性をはぐくんだりしていく。しかし、最近の子どもを取りまく環境や家庭の教育力を考えると、それはなかなか容易なことではない。子どもの社会性をはぐくむためには、子どもに積極的にかかわろうとする大人たちの意識の向上と姿勢が大切であることが分かった。学校はその教育力を生かして親子の共同体験を教育活動に積極的に取り入れ、PTAや地域との連携を図っていかなければならない。この取組が子どもの豊かな心と社会性を育てるための家庭教育支援になる。

6 おわりに

家庭教育は、基本的に家庭の責任にゆだねられていて、それぞれの親の価値観や姿勢に基づいて行われるものである。個々の家庭教育の在り方に絶対的な「正解」があるわけではなく、家庭教育の支援にあたっては、できる限りそれぞれの家庭の状況に即した対応が必要である。このようなことから、家庭教育の支援は「上から教える」あるいは「事細かに親切に指導する」ということではなく、親の主体性を大切にして、親自身の気づきを促すような助言を行うこと、つまり、「伴走者」としての役割が重要である。

これからも、ともに子どもを育てていくという視点に立ち、親との信頼関係を築きながら、家庭・学校・地域との連携の在り方を検討し、子どもによりよく生きる豊かな心と社会性がはぐくまれるように学校の立場からかかわっていきたい。

参考・引用文献

- | | | | | |
|-----|-----------|-----------------------|----------|------|
| (1) | 文部省 | 現代の家庭教育—小学校高学年・中学校期編— | ぎょうせい | 1994 |
| (2) | 斉藤博、廣川正昭 | 中高生がきらりと光る！家庭教育のすすめ | 恒文社 | 1999 |
| (3) | 奈良県立教育研究所 | 平成12年度家庭教育アンケート調査報告書 | 奈良県教育委員会 | 2001 |
| (4) | 入江昌明、半田博 | 母親・父親・地域の教育力 | E X P | 2001 |
| (5) | 玉井泰之 | 学校・地域・家庭連携事例集 | 教育開発研究所 | 2002 |
| (6) | 今野雅裕 | 学校と地域のネットワーク | ぎょうせい | 2002 |
| (7) | 奈良県立教育研究所 | 平成14年度家庭教育アンケート調査報告書 | 奈良県教育委員会 | 2003 |
| (8) | 木岡一明 | 家庭を取り巻く環境の把握と地域協働 | 教育開発研究所 | 2003 |